

志賀高原の樹木やネマガリダケなど山の資源を利用して、炭焼き、竹細工、^{しらはし}白箸づくり、ろくろ細工などが行われてきました。材料となる樹木の^き伐り出しを制限するなど、人々は江戸時代から山の恵みを利用するとともに自然を大切にしてきました。このこともユネスコエコパークに選ばれたことにつながっています。

炭焼き

かつては炭焼きにより多くの木炭が作られました。現在、澗満滝展望台近くに炭焼き^{かま}窯が復元され、炭焼きが行われています。

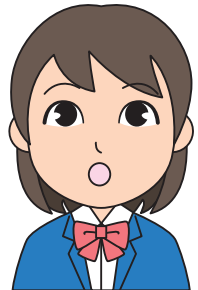


炭焼き



昔は炭が燃料だったから炭焼きが盛んだったんだね。

昔は竹細工で生活用具が作られていたのね。



竹細工

ネマガリダケを割り、割った竹を手で編み、ざる、かごなどを作ります。須賀川の竹細工は長野県伝統的工芸品に指定されています。



竹細工を学ぶ

^{しらはし}白箸づくり

志賀高原の針葉樹の樹木を^き伐り出し、多くの種類の箸が作られました。



多くの種類の白箸

ろくろ細工

温泉客のお土産^{みやげ}品として自然の木目を生かしたろくろ細工は人気がありました。ろくろ細工の伝統は今日まで受け継がれています。



ろくろ細工

◆山ノ内町から生まれた楽器 コカリナ

コカリナは長野冬季オリンピックの時に伐採されたイタヤカエデの木から作られた小さな楽器です。子どもたちが長野冬季オリンピック表彰式や志賀高原競技会場でコカリナを演奏しました。

「山ノ内町で生まれた楽器。多くの人に知ってもらい、吹ける人になってほしい。」という願いから、町内すべての小学校で4年生からコカリナを学習します。音楽会、長寿を祝う会などいろいろな機会演奏されます。

町内にはいくつものコカリナのサークルがあります。自然の木から生まれるコカリナの優しい音色は、町内から全国・海外へと広がっています。



町内で製作されているコカリナ



コカリナによる演奏



東京2020オリンピックの山ノ内町の聖火リレーの時も演奏されたよ。

